

太陽光発電の世界動向と今後の見通し

Global Trends and Outlook of PV Power Generation

(株) 資源総合システム ○貝塚 泉, 栗原理砂

RTS Corporation, ○Izumi KAIZUKA, Risa KURIHARA

E-mail: kaizuka@rts-pv.com

2017年の太陽光発電世界導入量(DCベース、速報値)は、中国の導入量の大幅な拡大により、数GW前後する可能性があるものの約100GW近くとなる見通しである。導入量世界第1位の中国では、2017年1~11月で48.65GWの太陽光発電システムが導入された。2018年1月1日連系分より分散型太陽光発電の補助金が減額されるために12月にも駆け込み導入が見込まれており、年間導入量は50GWを超える見通しである。導入量世界第2位は、米国では、2017年通年で約11.8GWが導入されたと見込まれる。インドにおいては、2022年までに計100GWの太陽光発電を導入することが計画されており、2017年の導入量では日本を抜いて世界第3位となる可能性がでている。こうした主要市場での市場拡大に加えて、中近東、アフリカ諸国及び中南米でも需要が拡大することが見込まれており、2018年の世界市場は100~120GWとなると見通している。

旺盛な需要を背景に、太陽電池製造産業も生産能力の拡大を継続している。性能について要件を盛り込んだ入札制度が中国において実施されていることから高効率品への需要も高まり、太陽電池の変換効率や太陽電池モジュールの出力も向上している。

本講演では、世界における太陽光発電市場及び結晶シリコン太陽電池製造を中心とした太陽電池産業の現状を概括したうえで将来を展望する。